

## 1 ソフトの名称

Turbo HAMLOG リポート面キュービック用定義ファイル【qbic\_r-01】

## 2 取り扱い種別

フリーソフト

## 3 ソフトの概要

アマチュア無線のフリーソフトウェア「Turbo HAMLOG/Win」の  
キュービック QSL カードリポート面印刷用定義ファイル。

## 4 動作環境

Windows XP/Vista/7 で  
Turbo HAMLOG が動作する環境

## 5 インストール方法

解凍し、Turbo HAMLOG フォルダに入れて下さい（Turbo HAMLOG でリポート面に印刷する方法 2 参照）

## 6 アンインストール方法

Turbo HAMLOG フォルダに入れたファイルを削除してください。

## 7 連絡先

qbic@apricot.ocn.ne.jp

## 7 その他

※当ファイルには罫線は含まれておりません。キュービックで印刷した QSL カードのリポート面にお使いください

※入力項目が当社定義ファイルと合わない部分がある局は恐れ入りますが定義ファイルの書き換え、  
もしくは記入項目の変更をお願いします。

※全てのプリンタにつきまして動作を保証するものではありません。そのため、プリント位置合わせに  
定義ファイル内の座標を細かく変えて位置を調整していくという性質上、ミスプリントの可能性が  
ございますこと、ご承知ください。

## R-04、R-06 の方

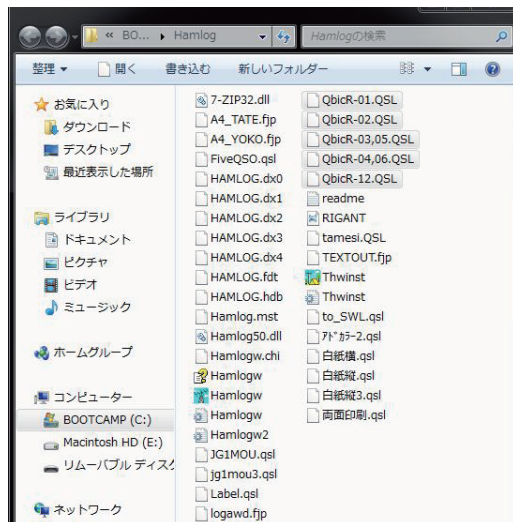
2

### 1 圧縮ファイルを解凍する

ダウンロードしたファイルは ZIP 形式に圧縮されています。解凍ソフトを使って、ファイルを解凍して下さい。解凍が完了すると、QSL 形式の定義ファイルが表示されます。

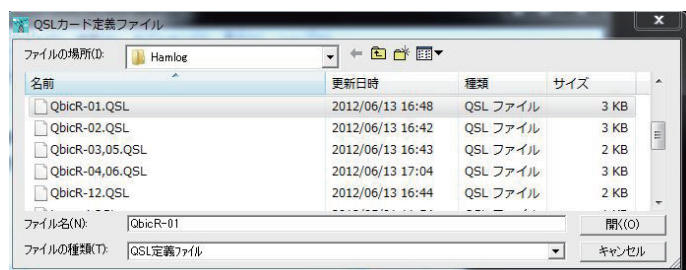
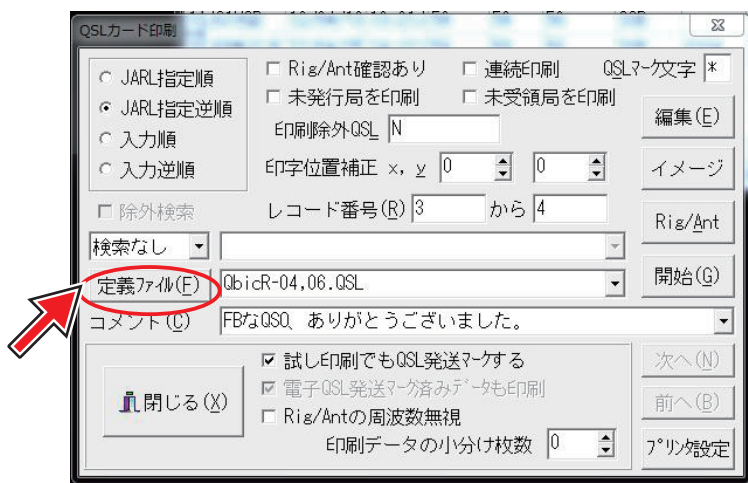
### 2 解凍した定義ファイル

解凍した定義ファイルを Hamlog フォルダに入れます。



### 3 印刷時に定義ファイルを選択する

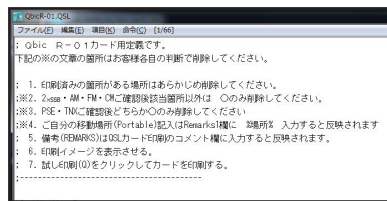
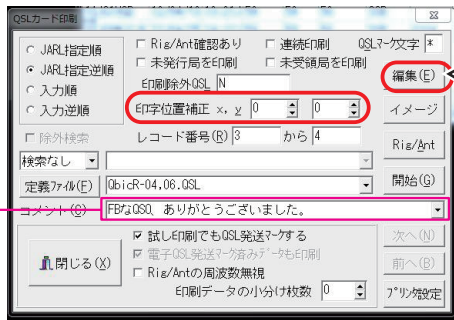
Turbo HAMLOG を起動し、メニューの【オプション】→【QSL カード印刷】を選択【定義ファイル】ボタンを押して Qbic のカードの種類の定義ファイルを選択して下さい。



## R-04、R-06 の方

## 4 【オプション】→【QSL カード印刷】 印字位置の補正等

印字位置は、お使いのプリンタにより異なりますので、印字位置補正をしてください。  
各項目の細かい設定は【編集】ボタンから行います。



※画面は R-01 です。

## 5 【編集】→定義文の補正等

【編集】を押すと R-04、R-06 の定義文が表示されます。  
最上部に記載されている指示を読んで該当する箇所を  
削除や入力等を行って下さい。

## R-04、R-06 定義内容

; Qbic R-04・06 カード用定義です。  
下記の※の文章の箇所はお客様各自の判断で削除、記入してください。

- ; 1. 印刷済みの箇所がある場所はあらかじめ削除してください。
- ; 2. RMKS(備考)は QSL カード印刷のコメント欄に入力すると反映されます。
- ;※3. PSE・TNX で確認後どちらか\*のみ削除してください。
- ;※4. 当局が常設運用の場合は\*削除してください。
- ;※5. 当局が移動運用した場合移動運用地を Remarks1、2 に記入すると反映されます % 移動地 %
- ; 6. 【編集】から【印刷イメージ】を表示させる。
- ; 7. 【試し印刷】をクリックしてカードを印刷する。

Remarks の % と % の間の文字が反映されます。

```
#SetXY -40, -5
#FontName="MS Pゴシック"
#FontSize=10
#FontColor=0x00000000
#FontStyle=0
#Print 140, 150, "!cp" ; To Radio

#FontSize=20
#Print 400, 100, "!C1" ; JARL 転送枠 1 文字目
#Print 490, 100, "!C2" ; JARL 転送枠 2 文字目、以下同じ
#Print 580, 100, "!C3"
#Print 670, 100, "!C4"
#Print 760, 100, "!C5"
#Print 855, 100, "!C6"qqwqw

#FontSize=12
#Print 850, 230, "!NO"

#FontName="MS 明朝"
#FontSize=12
#FontColor=0
#FontStyle=0
#Print 75, 350, "!Dy" ; 年
#Print 150, 350, "!Dm" ; 月
#Print 220, 350, "!Dd" ; 日
#FontName="MS 明朝"
#FontSize=9
#FontColor=0
#FontStyle=0
?UTC!
#Print 310, 320, "JST" ;JST の場合
?UTC
#Print 310, 320, "UTC" ;UTC の場合
#FontName="MS 明朝"
#FontSize=12
#FontColor=0
#FontStyle=0
#Print 310, 350, "ITH:ITM" ; 交信時間
#Print 510, 350, "!FR" ; 交信周波数 MHz
#Print 660, 350, "!HR" ; 信号了解度 2WAY
#Print 850, 350, "!MD" ; 電波形式 RST

#FontName="MS P明朝"
#FontSize=10
#FontColor=0x00000000
#FontStyle=0
#Print 220, 405, "!RG" ; 送信装置 RIG
#Print 800, 405, "!Pw" ; 出力 OUTPUT
#Print 220, 450, "!AN" ; 空中線形式 ANT
#Print 800, 450, "!Hi" ; 地上高 mH
#Print 220, 490, "!Co" ; 備考 RMKS

#FontStyle=1 ; Bold
#Print 660, 530, "*" ;※3 PSE に*が付きます TNX の方は*のみ削除
#Print 850, 530, "*" ;※3 TNX に*が付きます PSE の方は*のみ削除

#Print 54, 560, "*" ;※4 当局が常設運用の場合は*削除してください。

#FontName="MS P明朝"
#FontSize=10
#FontColor=0x00000000
#FontStyle=0

#Print 100, 600, "!R1" ;※5 当局が移動運用した場合移動運用地を Remarks1 に記入すると反映されます % 移動運用地 %
#Print 100, 640, "!R2" ;※5 当局が移動運用した場合移動運用地を Remarks2 に記入すると反映されます % 移動場所 %
```

